

山蔭恵美子先生、剛柔会女性初八段位合格！

この度、全日本空手道連盟剛柔会・拳心会主席師範の山蔭恵美子先生が、女性として初めて剛柔会八段位に合格されました。山蔭先生に合格の喜びをお聞きしました。(一部抜粋)



山蔭恵美子先生。

空手との出会い

主人の始めた空手道教室の手伝いが空手との出会いで、5歳の長男と一緒に30歳でのスタートでした。2人の子どもを保育園に預けて共働きの生活でしたので、始めは昇段審査には全く関心がありませんでした。39歳で初段を頂いて、どうせやるなら頑張ってみようという気持ちになり、上の段を目指して稽古も週2日から3日の道場通いとなりました。会派の地区大会や実業団の全国大会にも選手として出場させて頂き、当時はマスターズの大会はありませんでしたから、実業団では大学生から若い人達に混ざっての試合でしたが、とても思い出深いです。49歳で選手は退きました。

八段取得に向けて

61歳で七段取得の後、故・間山統正先生、新垣晴朗先生には八段に向けて、七段取得前に引き続き変わらずご指導を頂きました。間山先生ご逝去後は、



1992年には「第2回アメリカ派遣武道代表团」の空手代表5名の1人としてアメリカのポートランドにて、形の演武などをした。山蔭先生49歳の時。

新垣先生、竹川達男先生のご指導を頂くようになりました。間山先生もですが、新垣先生、竹川先生も決して偉ぶる様子は微塵も無く、常に対等に接して下さり、技についても、丁寧に詳しく説明しながら手本を見せて教えてくださいました。両先生の知識は深く豊富で、毎回稽古の度に新しい知識を惜しげもなく伝えて下さり、頭の下がる思いと、この上なく幸福な時間でした。技術的な指導だけでなく人としてのあり方も教えて頂いた両先生方に出会えた幸せを感謝せずにはられません。

八段に挑戦して9年目の本年、令和元年7月26日に76歳での合格でした。

八段合格を頂いて

合格の知らせを頂いた時、一瞬頭が真白になり息が止まりそうになりました。頑張りたいとの希望が半分、無理かもしれないとの諦めに似た気持ちが半分、そのような状態での受審でしたから、正直、信じられない思いでした。「会派が女性の八段を認めてくれた」「連盟剛柔会はすごい」と胸の中が熱くなって感謝、感動の波が胸一杯に広がってきました。

お世話になった先生の顔が浮かび、親や家族の顔が浮かび、様々な方々の顔が浮かんで、感謝、感謝でした。皆様のおかげです。本当に有難うございます、と胸の中で繰り返していました。あの時の感動はかつて経験したことのないものでした。一生忘れられないものとなるでしょう。

皆さんに応援して頂き会派の理解のもと、女性の八段位を認めて頂きました。会派に恩返ししたい、指導して頂いた先生方に恩返ししたい、感謝を形に表していきたい、との思いは強いです。

女性八段位第1号の責任を強く感じます。今後の女性の空手指導者にとって希望につながっていく事と信じます。また、そのようになって欲しいとも思います。空手指導者を目指す女性達の土台に少しでもなれるよう、剛柔会と空手を愛する女性の指導者達に、微力ながら精一杯を力を尽くしていきたいと思えます。